

暁木会会員 各位

令和 6 年 9 月 吉日

暁木会

<http://www.gyoubokukai.jp>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。暁木会ニュース第 51 号ではスタートライン、高山先生の研究報告、現役最前線を寄稿いただきました。令和 5 年度総会、ガイダンス・業界説明会、年会費活用の報告とともに、ぜひご一読いただきますようお願いいたします。

## 令和 5 年度総会

暁木会では例年、大学の卒業式の日程にあわせて、総会と懇親会を湊川神社の楠公会館で開催しています。令和 5 度は対面で、総会と懇親会（コロナ禍を経て 4 年ぶりにアルコールあり）を開催しました。

総会では、来賓紹介、会長挨拶、議案審議、新役員紹介、大学近況報告、支部活動報告、KTC 報告が例年通り行われ、6 つの議案は異議なく承認されました。

優秀学生表彰は、次の方々を受賞されました。心よりお喜び申し上げます。

- ・ KTC 理事長賞： 中舎 愛貴 様
- ・ 暁木会会長賞： 中田 あや 様
- ・ 市民工学教室表彰： 三上 侑希 様
- ・ 修士論文最優秀発表賞： 友近 温人 様 高橋 大輝 様

新会員歓迎の言葉として、柴田広志様（C12M）より励ましの言葉が述べられました。新会員代表として、暁木会会長彰を受賞した中田あや様より挨拶がありました。



総会の様子

令和 6 年度の暁木会役員は、会長に新制 36 回の黒澤正之、副会長に新制 39 回の坪本正彦、新制 42 回の永井哲夫、常任幹事 9 人で構成されます。

総会資料は、ホームページ（URL <http://www.gyoubokukai.jp/about/soukai.html>）に掲載していますのでご参照ください。以下に主な情報を抜粋いたします。

令和5年度総会資料より

日時： 令和6年3月26日（火）、総会 18:00～19:20、懇親会 19:30～  
 会場： 湊川神社 楠公会館  
 出席者： 来賓2名（藤田名誉教授、喜多名誉教授）、教員11名、会員44名、卒業生・修了生53名 計110名  
 議案： 1. 会務報告 2. 会計報告 3. 監査報告 4. 役員改選 5. 予算案  
 会員数： 卒業・修了者5,376人、会員数4,087人（令和6年4月1日現在）  
 令和6年度役員：  
 会長：黒澤正之<sup>㉔</sup>、副会長：坪本正彦<sup>㉕</sup>、永井哲夫<sup>㉖</sup>、KTC副理事長：水口和彦<sup>㉗</sup>、  
 KTC理事：伊藤裕文<sup>㉘</sup>、野村貢<sup>㉙</sup>、KTC監事：室井敏和<sup>㉚</sup>、  
 常任幹事：田中健一<sup>㉛</sup>、船越寿明 C98、中田将紀 C07、奥西史伸 C96、谷口文彦 C05  
 吉牟田竜太 C99、中屋行雄 C96、神吉秀哉 C98、後藤尚 C00



石原会長のあいさつ



新役員を紹介



優秀学生の表彰



懇親会の様子

## スタートライン

パシフィックコンサルタンツ株式会社  
 国土基盤事業本部河川部流域計画室  
 松下 晃生 C20M22

市民工学専攻を修了し、社会人となって早3年目となりました。研究室時代は内山研究室に所属し、数値シミュレーション技術を駆使して、世界的な海洋環境問題である海洋マイクロプラスチック問題にアプローチしました。就職活動では、R2年7月の球磨川の災害で親族が被災したことが契機となり、河川防災に携わる仕事をしたいという思いが芽生え、技術の力で社会に貢献できる建設コンサルタント業界を志望しました。

パシフィックコンサルタンツに入社後は、希望した河川部に配属され、河川計画や防災まちづくりに資する業務を行っています。入社から現在までに行ってきた2つの業務と活動を紹介させていただきます。

1つ目は、水害リスクマップの作成業務です。従来の浸水想定区域図に加え、浸水リスクを発生頻度ごとに地図上に表示したもので、水害リスクに対して効果的なまちづくりに資する情報を、行政や地域住民、企業の方々に提供することを目的としています。

2つ目は、河道管理業務です。治水や環境の面から、河道に関する測量データの分析、現地調査、数値シミュレーションを行い、河道の形状や対策を検討する業務です。

業務外の活動として、社内の若手・中堅技術者とともに、河道管理業務の実務で使用する、植生消長を考慮した平面二次元河床変動解析モデルの開発を行い、先日開催された土木学会の「河川技術シンポジウム」に論文を投稿し、オーガナイズドセッションに登壇させていただきました。最先端の技術を社会で実装し、河川を通して明るい未来を描いた提案ができるよう、日々取り組んでいます。

私の職業は、日本全国がフィールドであり、自らの知見が広がることを嬉しく感じると同時に、各業務に対して真摯に向き合い、エンドユーザーである市民の皆さまに対して最良の提案ができるよう、日々取り組んでいます。大学、特に研究室時代に培った、「未知なる課題にアプローチする力」は間違いなく今の仕事で役立っており、技術者として歩みだした自分の基盤となっていると感じます。また今年4月には、市民工学出身の方が4名、当社に入社してくれました。直属の部署内にも、市民工学出身の先輩がおり、同郷を持つ仲間とチームなって仕事をできることを誇りに思っております。



河川技術シンポジウムでの発表

今後も研鑽を続け、業務内外の活動を通じて技術者として成長し、豊かな社会の形成に貢献したいと考えています。

## 研究報告

### 高レベル放射性廃棄物地層処分における熱/水/力学連成挙動研究

准教授 高山裕介

2024年4月1日付で都市安全研究センターに着任いたしました高山です。私の専門分野は地盤工学です。神戸大学の博士後期課程を修了後、日本原子力研究開発機構の東濃地科学センターで1年間、日本原子力研究開発機構の核燃料サイクル工学研究所で9年間、研究業務に携わってきました。そしてこの度、母校に教員として戻ってまいりました。

近年、脱炭素社会の実現に向けて原子力に対する期待が高まっている一方で、放射性廃棄物の問題にも着実に取り組んでいかなければならないと考えています。これまで私は、放射性廃棄物の潜在的危険性に起因する災害から人間と環境を保護するための工学的対策とその性能評価の研究として、放射性廃棄物を地下深部に埋める地層処分の研究に従事してきました。

日本では、原子力発電の運転に伴い発生する使用済燃料を再処理し、取り出したウランやプルトニウムを再び原子力発電の燃料に使う核燃料サイクルを推進しています。この過程で発生する高レベル放射性廃棄物は、地下300メートルより深い地層へ埋設する（地層処分）ことが法律で決められています。地層処分の基本概念は、地層が持つ隔離や閉じ込めといった天然のバリア機能（天然バリア）と人工的なバリア機能（人工バリア）による多重バリアシステムによって、数万年以上にわたり人間の生活環境から隔離することです。数万年以上にわたる安全性を直接実証することは不可能であるため、科学的な知見に基づく予測によって保証する手段がとられます。そこで私は、人工バリアの一つであるベントナイトと呼ばれる粘土を用いた緩衝材を主な研究対象として、地層処分施設の長期的な状態変遷を高精度に予測し、施設の性能を評価する手法の構築を進めてきました。

例えば、施工直後の地層処分施設では、廃棄体の発熱等の熱的作用、不飽和状態にある緩衝材への地下水の浸潤といった水理的作用、地下水の浸潤に伴う緩衝材の膨潤といった力学的作用などが相互に影響を及ぼしあう連成現象が生じると考えられています。日本原子力研究開発機構の幌延深地層研究センターでは、深度350mにおいて実規模の処分システムを模擬した人工バリア性能確認試験が実施されています。この試験では模擬オーバーパックに内蔵した電熱ヒーターを加熱し、模擬オーバーパックの表面温度を100°C程度まで上げて、緩衝材などに地下水を送り込みながら、人工バリアや周辺岩盤の状態変化（温度、水分、応力等）を観測しています。私は、このような地下深部での実規模試験の計測データ等を活用しながら、評価手法の構築とその妥当性の検証を行っています。

地層処分の処分地を選定するプロセスは、文献調査、概要調査、精密調査と段階的に進められます。調査の次の段階に進む際には、都道府県知事と市町村長の意見を聴き、意見に反して次の段階に進むことはありません。そのため地層処分は、社会からの理解と信頼が得られて初めて実現することができます。近年、北海道の寿都町と神恵内村、佐賀県の玄海町で文献調査が開始され、地層処分事業は一つの節目を迎えています。これを機に多くの人々が地層処分への関心を持つことを期待しています。また、本稿が地層処分を知っていただくことの一助となれば幸いです。

## 現役最前線

### 道路舗装の維持修繕について

東亜道路工業株式会社 技術部長 塚本真也 C98M00

#### 1. はじめに

神戸大学では、故・西勝先生の研究室に在籍しました。研究室は舗装の設計方法や材料の評価方法に関する研究をしており、東亜道路工業（株）等のいくつかの企業と共同研究をしていました。その縁もあって、2000年に神戸大学大学院博士前期課程を修了し、すぐに東亜道路工業に入社しました。東亜道路工業に入社後は、数年間の現場の後、本社技術部と技術研究所を交互に何度かの転勤を経て現在は技術部長をしています。

東亜道路工業は1930年に創立され、日本の道路の黎明期から舗装工事、材料の製造販売をしています。東亜道路工業の特徴は、道路舗装の施工会社であると同時に独立系の材料メーカーでもあることです。アスファルト乳剤、ポリマー改質アスファルト、道路橋床版防水材料など舗装関連材料の製造・販売をしています。また舗装の効率的な維持修繕に向けて必要となる調査業務や設計業務にも取り組んでいます。

最近、私は日本道路協会から発刊された「アスファルト舗装の詳細調査・修繕設計便覧」の執筆をお手伝いしたこともあり、ここでは、舗装の維持修繕関係の技術をご紹介します。

#### 2. フォグシール工法

2016年に、会社に在籍したまま、再び神戸大学に入学しました。故・吉田信之先生、澁谷啓先生にご指導いただき、このフォグシール工法に関する研究に従事しました。2019年には博士論文にまとめることができた思い入れのある工法です。

アスファルト舗装の結合材であるアスファルトは、雨水や紫外線の影響により、硬く脆くなります。このため、時間の経過とともに、舗装表面の細粒分が剥脱し、ごつごつした路面になったり、ひび割れが生じたりします(写真-1)。これらの破損を予防する工法の一つに「フォグシール工法」があり、アスファルト舗装表面にアスファルト乳剤を薄く散布する(写真-2)ことで、小さいひび割れや表面の空隙を充填し、舗装の延命化を図ることができます。写真-3は、アスファルト舗装施工直後にフォグシールを施工し、10年供用後の路面状況です。フォグシール工法を適用した箇所は平滑な路面を維持していることが分かります。フォグシール工法による舗装の延命効果について各種の室内試験から推定した結果、アスファルト舗装の供用から5年後にフォグシール工法を適用すると舗装の寿命を3割伸ばすことができ、また、この結果に基づきライフサイクルコストを試算したところ舗



写真-1 50年経過した路面



写真-2 フォグシール工法



写真-3 フォグシールの効果

装の修繕費用を2割削減できるとの結果が得られました。

今後、いままで以上に効率的に舗装の維持管理を行っていくためにライフサイクルコストを意識することの重要性が高まっています<sup>1)</sup>。 Fogシール工法はライフサイクルコストの削減に有効な工法ですから、広く普及するよう積極的に取り組んでいきたいと考えております。詳細は文献<sup>2)</sup>をご覧ください幸いです。

### 3. 移動式たわみ測定装置 (MWD)

2014～2020年に、技術研究所で工法・調査技術開発の研究室長をしました。このとき国立研究開発法人土木研究所等との共同研究で開発した道路舗装の調査技術です。

現在、道路舗装を適切かつ効率的に維持管理するために、定期点検によって舗装の路面性状（ひび割れ、わだち掘れ、IRI）が測定されています。路面性状調査結果からは舗装路面の状態は分かるものの舗装の構造健全性までは把握できません。このため、構造的健全性の把握が必要な箇所は開削調査やFWD等の詳細調査が実施されています。

今回、開発した移動式たわみ測定装置（MWD）は、レーザードップラー振動計により、走行中の車両の荷重によって生じる舗装の変形速度を計測するもので、図-1に示すようにFWDと同等のたわみ量を測定することができます。FWDよりも迅速に舗装のたわみ量を測定することができるため、道路ネットワーク全体の構造的健全性を容易に把握できます。またFWDは20m間隔で測定されることが多いですが、MWDは連続的なデータを取得できるため局所的な支持力低下箇所等を発見することも可能になります。

東亜道路工業では、MWDに路面性状装置をも搭載したMWD plus(写真-4)を開発し、舗装の定期点検時にたわみ量も同時に測定することを提案しています。MWD plusは、これまでの舗装のメンテナンス手法を革新する技術であり、今後も技術の高度化・普及に取り組んでいきたいと考えております。詳細は文献<sup>3)</sup>をご覧ください幸いです。

### 4. おわりに

ここでは、紙面の都合もあり私が特に思い入れのある舗装の維持修繕技術をご紹介しましたが、道路舗装全般に関してご疑問点等ございましたら、塚本までお気軽にお問合せ頂ければ幸いです。

### 参考文献

- 1) (公社)日本道路協会舗装委員会：「舗装の要求性能の整理と設計体系のあり方基本方針まとめ」, 2023/2, [https://road.or.jp/img/technique/pdf/hosou\\_housin\\_matome.pdf](https://road.or.jp/img/technique/pdf/hosou_housin_matome.pdf)
- 2) 塚本ほか： Fogシールによるアスファルト舗装の延命化に関する実験的検討, 土木学会論文集 E1(舗装工学), 2016, [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejpe/72/3/72\\_I\\_133/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejpe/72/3/72_I_133/_article/-char/ja)
- 3) 梅田ほか： 移動式たわみ測定装置 (MWD) のたわみ量解析手法の提案, 土木学会論文集 E1(舗装工



写真-4 MWD plus

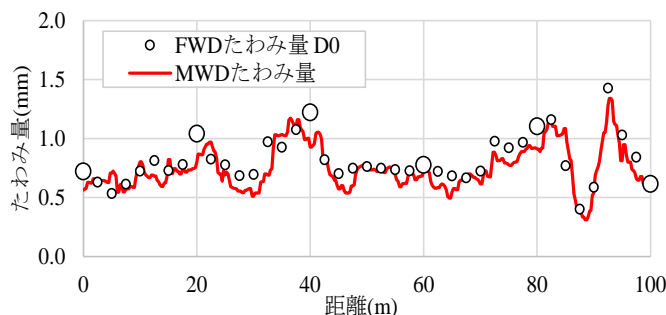


図-1 舗装たわみ量の測定事例

## 現役最前線

### 大海原への挑戦 ～浮体式洋上風力発電開発への取り組み～

関西電力株式会社 再生可能エネルギー事業本部 技術グループ  
浅香 遼 C12M14

#### 1. はじめに

私は2014年に修士課程を修了後、関西電力株式会社に入社しました。これまで、紀伊半島大水害(2011年)により被災した奈良県十津川村の長殿発電所復旧工事の現場で約2年半間、その後は主に新規海外水力発電所開発プロジェクトの建設準備段階までの業務（水力発電設備の計画、調査、設計、建設契約の調整など）に約5年間携わってきました。2022年7月に洋上風力発電開発の技術面を担う現所属に異動となり、洋上風力発電所の開発計画立案（風況や海象などの調査計画や解析、構造物の設計、建設費用算定、リスク評価などの検討）の業務を、主に浮体式洋上風力発電プロジェクトを対象にしています。

#### 2. 洋上風力事業について

弊社はゼロカーボンビジョン2050を策定し、ゼロカーボンエネルギーのリーディングカンパニーを目指しており、洋上風力発電の開発はその中の取り組みの大きな柱として注力しています。代表例として国内では秋田・能代港沖の着床式洋上風力発電、海外ではボークムリフgrund 3洋上風力発電プロジェクト（独国）等の着床式プロジェクトに参画しています。今後は世界的にも着床式が難しい水深の深い海域での洋上風力開発が必要となり、浮体式洋上風力発電の開発が進んでいくと考えられていますが、日本は沖に出ると急激に深くなる海底地形や、排他的経済水域の広さが世界有数であることから、浮体式洋上風力発電開発のポテンシャルが大きいと考えられています。弊社は欧州で進められている浮体式洋上風力発電の実証プロジェクトに参画しており、それらに深く関わることで知見を得て、日本の浮体式洋上風力開発の競争力向上を目指しています。私はそれら欧州プロジェクトのチームの一員として、現地でプロジェクトの建設・開発等に携わっています。今回は簡単にそれらを紹介したいと思います。

#### 3. スペイン王国 ビルバオ沖 Demo SATH 実証プロジェクト

本プロジェクトは2023年8月に参画し、Saitec Offshore Technologies社とRWE Renewables社との共同実証プロジェクトです。出力2MWの風車1基をコンクリート製のバージ型浮体（右図）に搭載し、スペインのビルバオ市沖3kmに係留、2023年9月より発電運転中です。私は2023年8月、参画と同時に始まった浮体の曳航と事前敷設された係留との接続工事の現場に派遣されました。施工船に乗船（右写真・右端浅香）し、施工過程における品質管理や安全管理をはじめ、洋上工事の保険の観点よりMWS (Marine Warranty



Surveyor)と調整を行うなど 24 時間体制で動く現場から、開発事業者が現場管理、その前段階で調整・契約で抑えておくべき事項などノウハウ吸収に努めました。現在は当社が参画する前段階工事も含め、協業会社と振り返りをしております。なんとか英語を駆使しながら、コンクリート浮体の施工、ヤード整備などの計画と実際を記録しながら、規制なども異なる日本におけるコンクリート浮体の課題などを整理しているところです。



左：DemoSATH 浮体（ビルバオ港） / 右：浮体建設時写真（Saitec Youtube 動画抜粋）

#### 4. ノルウェー王国 バレンツ海沖 ゴリアテヴィンド（Goliat Vind）プロジェクト

本プロジェクト（右図：プロジェクト位置図）は Source Galileo Norge 社、 Odfjell Oceandwind 社（OOW 社）との共同プロジェクトです。本事業はプロジェクトの開発段階から参画する初めての海外浮体式洋上風力案件で、2024年3月にノルウェー政府系投資機関より総額 20 億ノルウェークローネ（約 300 億円）の補助を受けることが決まりました。私自身も浮体設計・製造関連でプロジェクトの一員として浮体関連の契約管理、設計・調達の工程マネジメント業務に従事しております。このプロジェクトは鋼製浮体を用いるプロジェクトですが、現在、高緯度の厳しい気象・海象環境に耐えるよう設計を行っているところです。その設計は船級協会による認証を受けるのですが、その過程、必要な技術検討などを把握しながら同時にそれらがプロジェクト工程の中で納まるような工夫を、設計を担う OOW 社と一緒に実施しております。夏でも 20 度を下回る涼しいノルウェーにも出張し、様々な技術者と議論しながら業務をしております。



#### 4. おわりに

水力発電業務に携わっている際は、接していた社内外の技術者のほとんどが土木工学の技術者の方でした。現在の洋上風力の仕事においては、土木以外の様々な工学分野の企業、技術者・研究者の方々がおられます。また土木工学以外の新しい知識も必要で、アンテナを高く張ることの重要性を痛感しています。初めはまさに、1 隻のボートで大海原に出たような感覚でした。また、先述の欧州のプロジェクトも最先端であり、中に入ってみると、どう進めるのがいいのか色々な背景・国籍の人で議論し、解決策を模索し、進んだと思ったらまた課題に直面するような、荒波の中を進んでいます。

これまで保有していなかったノウハウを吸収しながら、日本における課題の特定、その解決と日本の洋上風力産業の発展に役立てたいと考えております。最後になりましたが、暁木会と市民工学科の益々のご発展を祈念しております。



## 暁木会・KTC に関するガイダンス・業界説明会の報告

暁木会は今年4月、神戸大学工学振興会（KTC）と共同で、大学3回生に向けた暁木会・KTCに関するガイダンスおよび業界説明会を開催しました。

- ・ 実施日：令和6年4月9日（火）
- ・ 説明対象者：新3回生（参加者は65名）
- ・ 実施内容：
  - （1）本説明会の趣旨説明（竹山教授）
  - （2）KTC・暁木会の勧誘・PR（KTC副理事長・暁木会会長）
  - （3）グループごとの業界説明会（グループは下表参照）

分野別のグループ	参加した同窓生の業種
公務員	公務員
民間Ⅰ	インフラ事業者
民間Ⅱ	建設コンサルタント、総合建設業

この活動は昨年度より試行的に開催しているもので、学生が同窓の先輩方と直接対話する機会を通じて、就職について考える契機になることが好評を得たため、引き続き今年度も開催されました。暁木会は学生との対話やPR活動を通じて、暁木会への学生の認知度が上がったのではと期待しています。暁木会としては、引き続き、業界について説明することで、学生が就職について考えることの支援をしていきたいと考えています。



ガイダンス・業界説明会の様子（場所：市民工学科内教室 C4-201、C2-201）

## 年会費の活用について

暁木会は母校および KTC の発展に寄与するための事業、機関誌や会員名簿など刊行物の発行、ホームページの更新管理、ならびに会員相互の親睦に関する事業を行うために設立された団体です。現在の会員数は 4,087 人（令和 6 年 4 月 1 日現在）で、そのうち 1,177 人（令和 6 年 3 月時点、全体の 29%）の方が会費会員として登録されています。ここでは、年会費を利用した活動の内容をご紹介します。

### 1. 学生への支援

#### (1) 総会における優秀学生の表彰

例年 3 月の卒業式の日には総会を開催し、優秀学生への表彰と記念品の授与を実施しています。表彰には、KTC 理事長賞、暁木会会長賞、市民工学教室表彰、修士論文最優秀発表賞があります。

#### (2) 市民工学科教室への支援

毎年、市民工学科教室への支援を行っています。近年では研究室内の仕切り壁撤去費用、テレビ会議用の機器（カメラ、マイク、ノートパソコン）購入支援、学内のフットサル大会への支援を行っています。その他の用途として、カード式電子錠の設置（検討中）、実験用機器の更新積立、海外派遣の助成、学位授与式花代などを予定しています。



市民工学科・市民工学専攻フットサル大会（暁木会カップ）の様子

### 2. 会員相互の親睦を深める活動

#### (1) 総会の開催、ホームページの管理、暁木会ニュースの発行

総会は、毎年 3 月の卒業式の日には卒業生も招待して開催しています。令和 5 年度からは総会後の懇親会を再開しました。総会および懇親会は教員、学生、同窓生が一同に会する場になります。世代間での対話がより活性化されるような運営方法を検討しています。

ホームページは、役員会、常任幹事会、暁木会・KTC・神戸大学意見交換会、暁木一水会例会など、行事報告を掲載しています。同窓会や支部のページも用意しており、会員相互の情報共有の場としてもご利用いただけます。

暁木会ニュースは、年 2 回（9 月と 3 月）、発行しています。記事を通じて会員間の親睦を深め、旧交を温める機会としてお役立ていただければと存じます。

## (2) 会員名簿の発行

2年に1度会員名簿を発行し、会費会員に限定して配付しています。暁木会会員名簿の特徴は、掲載される情報の鮮度にあります。名簿発行の際は、常任幹事が窓口となり各企業・団体の同窓生に情報更新の取りまとめを依頼し、会員情報の更新維持に努めています。今年度は、名簿の改定版を発行する年となっております。現在、情報更新の取りまとめの作業中です。

主な登録内容は以下の通りです。

- ・勤務先：名称、所属部署名、役職名、郵便番号、住所、TEL、FAX、E-mail
- ・現住所：郵便番号、現住所、TEL、E-mail

名簿は会費会員にのみ送付しております。この機会に会費のお支払いを是非ご検討いただけますよう、よろしくご依頼申し上げます。

なお、会員名簿の電子化への移行を検討中です。

## (3) 各支部への活動支援

東京、東海、岡山県、広島各支部に対して、活動助成金を交付しています。新たに四国支部を設立するために準備中です。その設立支援も予定しています。

## 3. 会費の支出内訳

会費の支出内訳として、令和5年度暁木会一般会計の支出の部を示します。

総会費	584,160 円	
支部助成金	700,000 円	4支部（東京、東海、岡山県、広島）
会議費	109,750 円	役員会、常任幹事会など
市民工学教室への援助	400,000 円	
名簿発行特別会計	—	令和6年度会員名簿発行予定
事業費	846,539 円	ホームページ管理、暁木会ニュース発行、KTC会費管理委託
事務連絡費	18,676 円	
次年度繰越金	6,771,970 円	前年度繰越金は 5,180,964 円
計	9,431,095 円	

出典：令和5年度暁木会総会資料（URL <http://www.gyoubokukai.jp/about/soukair05.pdf>）

## 会費納入のお願い

暁木会は、会員の皆さまからいただく会費を主な収入源として運営しています。各界でご活躍の会員の皆さまのお力添え、応援をぜひ暁木会の活動に賜りたく、どうかそれぞれの活動に関心を寄せていただくとともに、この機会に会費納入をご検討いただければ幸いです。ここに、会費納入の方法をご案内いたします。

### 1. 年会費額

3,000 円

※年会費納入の登録をいただいた会員には、暁木会会員名簿（2年ごとに発行）を送付させていただきます。

### 2. 会費納入の手続き

会費納入の手続きをご希望される方は、暁木会事務局（[info@gyoubokukai.jp](mailto:info@gyoubokukai.jp) 宛）に氏名と連絡先を記載したメールをお送りください。後日暁木会事務局から「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」と「返信用封筒」を郵送いたします。手続き完了後は、集金代行業務を委託している三菱 UFJ ニコス株式会社にて、ご指定の金融機関から口座振替（自動引落とし）をいたします。登録情報の変更や登録の解除をご希望される場合は、暁木会事務局（[info@gyoubokukai.jp](mailto:info@gyoubokukai.jp) 宛）にご連絡ください。会費納入手続きの情報は、ホームページ（URL <http://www.gyoubokukai.jp/nenkaihi/nenkaihi.html>）にも掲載しています。

### 3. 口座振替の時期

毎年 10 月下旬ごろの予定です。

## おわりに

最後になりましたが、暁木会ニュース第 51 号の発行にあたり、執筆を引き受けていただいた皆さまにはたいへんなご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

暁木会ニュースでは、会員の皆さまからの記事を募集しています。会員相互の親睦を深める機会に頼りいたしますのが、皆さまからの情報になります。同窓会などを開催された際には、その様子をぜひ寄稿してください。

暁木会の活動に関して、ご意見、ご要望などございましたら、下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

発行者： 暁木会

【E-mail】 [info@gyoubokukai.jp](mailto:info@gyoubokukai.jp)

連絡先： 常任幹事広報担当 神吉秀哉 C98  
協和設計株式会社

【TEL】 070-2475-1004

【E-mail】 [kanki@kyowask.co.jp](mailto:kanki@kyowask.co.jp)